

## ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：建築&芸術学部 名前：廣田 政生 作成日：2023年12月27日

### 1. 教育の責任

建築&芸術学部の教育目標は「学修活動を通じて、創造的な構想力と表現力を修得し、文化的に人間生活を考える素養を備えた感性豊かな人材を養成する」とある。目標達成のためには様々な方法が存在するが、担当する絵画分野に限定するならば、「しっかりと絵を描く努力をする（させる）こと」であり、「作品を作る（作らせる）こと」である。作品を完成するためのプロセスを繰り返し経験する中で、悩み、考え、発見があり工夫があるなど、試行錯誤することが人を成長させることに至る道であると信じる。

「デザイン・造形美術入門Ⅰ」（実技、デザイン造形美術メジャー、春学期、2単位、98名）

「デザイン・造形美術入門Ⅱ」（実技、デザイン造形美術メジャー、秋学期、2単位、83名）

「アート体験」（実技、デザイン造形美術メジャー、春学期、2単位、26名、他クラスとの合同授業）

「表現技法Ⅰ」（実技、デザイン造形美術メジャー、春学期、2単位、7名）

「表現技法Ⅱ」（実技、デザイン造形美術メジャー、秋学期、2単位、6名）

「卒業制作」（絵画、通年4単位、6名）

「名著、名作から人生を考える」（経営学メジャーオムニバス授業で1回担当）

※受講者数は2023年度

### 2. 教育の理念

芸術を学ぶということは「自分は何者かを自身に問いかけ、自分を知ること」であり、「今日まで脈々と受け継がれた人の営みを知ること」であり、「現代社会の有様を知ること」であり、「未来を創造すること」である。そして、世界を正しく見るための自分自身の「ものさし」を手に入れることである。学生ひとり一人がそのことを実感し実践できるように、学修の場を通じて導きたい。

### 3. 教育の方法

学生各々の能力や経験の違い、興味対象や目指すものも様々であることから、指導に当たっては個別指導を基本とし、個々の学生の良いところを伸ばすことに力点を置くように心がけている。造形の基礎科目である「デザイン・造形美術入門Ⅰ・Ⅱ」や「アート体験」から、より深い専門性を学ぶ「表現技法Ⅰ・Ⅱ」と作品制作を行う「卒業制作」。それぞれに設定された習熟レベルや学習内容は異なるものの、多様な表現形式、技術、技法、知識を、制作体験を通じて「構成力」「発想力」「表現力」「伝達力」を養い、表現の幅が広がるように努めている。授業では、各能力を修得するための鍛錬をするとともに各自の発想を「作品化」できる力をつけることが目的である。

「デザイン・造形美術入門Ⅰ」（春学期）自画像を描く：表現の核となるのは「自分」であることを再認識する意味で「自己を見つめる・対峙する」をテーマにした課題。併せて描写力の養成に努める。「デザイン・造形美術Ⅱ」（秋学期）は静物画に取り組む。絵の具による作画を通じて、絵画表現の基礎を学ぶ。「表現技法Ⅰ」（春学期）は構成力をつけるために線と面による基礎構成から色彩およびローレリーフによる課題に取り組む。絵画だけでなく、デザインや立体造形など他分野を専攻する学生にも対応した課題構成にしている。「表現技法Ⅱ」（秋学期）では異なる3つの技法を体験し、作業の中から偶然に引き出されたイメージを、どのように作品作りに応用していくかを学ぶ。一つは「古典技法を学ぶ」と題して、テンペラ画技法を通じて美術材料の歴史や古典画法について、次に「フォトグラム」と「コラグラフ」では、写真と版画の技法を体験する。最終週には「増殖するイメージ展」と称して展覧会を行い、自作についてのプレゼンテーションを行うほか、他者の作品に対する批評文を書き課題の振り返りを行っている。

### 4. 教育の成果

授業では、課題ごとに必ず作品講評会を行う。また「表現技法Ⅰ・Ⅱ」、「アート体験」では、学期末に展示発表の機会を設け、「卒業制作」では「卒業制作展」で作品発表をすることを課している。作品発表を通じて学生個々の成長を育むことはもとより、他者による客観的視点で学修成果の検証を行っている。

### 5. 改善への努力と今後の目標

美術教育の現場において、高校卒業までに美術に触れ自らの手でものを作り出すという体験が非常に乏しくなっている現状がある。数

## ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：建築&芸術学部 名前：廣田 政生 作成日：2023年12月27日

年前と同じ課題に取り組ませても、今の学生は完成までに倍の時間を要する。直感で判断できない、無茶ができない、作業の段取りがつけられないなど、美術体験が乏しいことに起因する不器用な学生が増えているように感じる。子供のお絵かきと画家の制作は、扱う素材や子供と大人の違いがあるとはいえ「絵を描く」ということに変わりないのである。子供のころのように無我夢中で絵を描くということができれば、教えなくても学生自身が課題を発見し、判断できるのではないかと考える。理想の授業とはそのような形に近づくことである。努力したい。

### 【添付資料】

- ① 絵画材料の歴史/古典技法「テンペラ画（対面授業用）」「表現技法Ⅱ」Power Point 教材
- ② フォトグラム（対面授業用）「表現技法Ⅱ」Power Point 教材
- ③ 「増殖するイメージ展」展示記録
- ④ 「デザイン・造形美術入門Ⅰ・Ⅱ」絵画課題・学生作品写真記録
- ⑤ 「アート体験」学生作品・共同制作写真記録